



がん治療の副作用とその出現時期

どのような副作用が出現するかは、使用される抗がん剤の種類と量、放射線を当てる部位や照射量により大きく異なります。ここに示した表は、どのような副作用がどの時期に出現しやすいかを知っていただくためのものです。知ることによって、自分の体調変化を理解し、対応を事前にまた素早く行うことができ、苦しみを少しでも緩和することができるメリットがあります。

副作用症状	治療法			出現時期														備考	
	外科治療	抗がん剤治療	放射線治療	手術等治療開始	投与・照射	24時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	～	2週間		～
アレルギー反応		○		←→															
頻脈・悪寒 血管痛		○		←→															
めまい・頭痛 耳下腺痛		○	○	←→															
吐き気・嘔吐		○	○	←→			←→												急性 遅延性 予測性
下痢		○	○	←→															
口内炎		○	○	←→															治療後は徐々に改善。
口内乾燥 唾液分泌低下		○	○	←→															治療終了時までにピークに達し、終了後も持続。
食道の炎症			○	←→															照射完了後、2～4週間で治まる。
腹部膨満感		○	○	←→															
食欲不振		○	○				←→												
便秘 味覚変化		○	○				←→												
においによるムカツキ 全身倦怠感 発疹		○					←→												
体力低下		○					←→												
腸閉塞 イレウス	○								←→										手術後食事を開始してから発症。
脱毛・出血 感染・肝障害 腎障害 手足のシビレ 免疫不全		○												←→					
骨髄抑制		○												←→					1週間程度続く。

出現時期とは、矢印の期間に症状が出現する可能性があることを表します。矢印の期間、症状がつづくという意味ではありません。